

令和 7年度 園評価・関係者評価書

1. 教育・保育目標

「こころ豊かに たくましく育つ子ども」 ◎明るく元気な子 ◎みんなと仲良くする子 ◎力いっぱいがんばる子

2. 本年度の重点目標

伝え合い 認め合い つながりを深めながら 豊かな心と健やかな体を育む
～心はずませ 心かよわせ 育ち合う子をめざして～

3. 自己評価結果（達成状況）【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取組（達成）の状況・改善の方策	評価
園 運 営	○職員の資質向上 ・実戦的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・講師指導のもと園内研修(5回)を行い、特に『運動遊びが常時できる環境づくり』を模索しながら、職員の資質向上に努めた。また園外研修参加職員の学びを全職員で共有し、教育・保育に取り入れた。今後も指導力向上に努めていきたい。 ・園務について計画し、それぞれが責任を果たせるようにした。	A
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切にした指導 ○幼児一人一人の発達の特徴を踏まえた指導方法の工夫	・園児の興味・関心を探りながら、運動遊びを通して異年齢児との交流をさらに深め、自己発揮や試行錯誤ができる環境づくりに努めた。 また、園の特色を活かし自園ならではの細やかな教育・保育を心掛けた。特に異年齢での育ち合いを大切に職員間で連携し、わくわくタイム(3～5歳児でのルールのある遊び)や0～2歳児の合同保育などに力を注いだ。次年度もさらに自園の良さを活かす活動を工夫していきたい。	A
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	・園庭開放『かもっこくらぶ』(未就園児)を月1回開催し、温かい雰囲気の中で在園児とも交流できる内容を取り入れた。利用者は少数だが地域外から定期的に参加される方もあり、園を知り親しみをもっていたく機会となったが、地域の未就園児がほとんどいない現状がある。 ・園児が主体的に遊ぶ様子を参観後の講師先生による「家庭教育講座」では、大勢の保護者が参加してくださり、教育・保育の意図を理解したり、子どもたちへの関わり方を見直してもらったりする機会となった。講座の意義を感じ、次年度についても検討していく。	A
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底 と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・園舎が老朽化しているため、常に危険な箇所がないか点検し、気付いた箇所があれば、早急に改善を図るようにした。 ・全職員の危機管理能力を高め、迅速・適切に対応できるよう、避難経路や場所を再検討し、早朝・預かり保育時間や未告知で防犯・防災の避難訓練を実施した。今後も、様々な場面を想定して行っていきたい。 ・熱中症対策を行ったり、感染症の拡大を未然に防ぐため、保護者への啓発も行い、園児が健康に過ごせるように努めた。	A
道 徳 ・ 人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	・ふるさと創造会議の方との苗植えから始まり、野菜の世話を通して、生長の様子を見たり収穫したものを調理して味わったりする体験をし、より食への興味、関心が深まった。これからも大切にしていきたい。 ・お話の会「ぶらんこ」さんによる絵本の読み聞かせでは、絵本に親しみ豊かな感性を育む時間となった。デイサービス施設の高齢者の方との触れ合いを計画したが、日程調整が難しく叶わなかった。 ・自然豊かな園庭で見つけた虫や生き物の飼育を通して、思いやりの心や命の大切さを感じる機会となった。	B
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・支援児の思いを十分に理解し、困り感に寄り添った援助や配慮を行った。また保護者と登降園時や連絡帳を通して情報共有を行い、家庭と園とが協力し合って園児の育ちを見守っていく体制をとった。関係機関とも連携し、園児の姿を共有しながら、支援方法について相談しアドバイスを受けながら支援の仕方を探っていった。就学先との引き継ぎでは、支援してきた内容や有効な手立てなど、丁寧に行う。	A
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中・高との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○実習生の受け入れ ・人材育成の施設としての役割遂行	・園だより・保健だより・クラスだより・園長だよりの発信、幼児園ニュースの掲示を通じて、教育・保育活動の様子や意図を保護者に伝えるよう心掛けた。 ・運動会や生活発表会では、大勢の方に参加・応援をいただき、温かい雰囲気の中で、園児が存分に力を発揮し自信に繋げることができた。 ・小学校の先生に「遊びの中での学び」について知っていただく機会を設け、幼小交流の場も多かつことができた。中学・高校・大学生の実習などを通して多様な人と触れ合える機会がもて互いの学びとなった。	B

園名 加西市立賀茂幼児園

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

一人一人の思いを「後でね」ではなく、しっかりと丁寧に聞いておられるからこそ、子どもたちが自分の思いや困ったことなど、気持ちをきちんと伝えられている。
園評価のアンケートでは、「C」の項目もあったようだが、たまたまそう思うことがあったのでは…。園としては、とても丁寧に教育・保育がされている。
賀茂幼児園ならではの異年齢交流をこれからも大切にしてほしい。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・『運動遊び』は、講師指導のもと、一年中取り入れることができたのか？ ➡室内では空き部屋を利用し、5歳児が中心となって『アスモ』のような遊び場をつくり、戸外では異年齢でのルールのある集団遊びを継続できた。 ※講師の先生に足りない動きや高低差などに関するアドバイスをいただきながら多様な動きが経験できる環境づくりに努められたことは、とても良いと思う。 ・運動会や発表会を見ても、年齢に応じた成長を感じた。それぞれの活動でいろいろと工夫されている様子が伺え、素晴らしい。 ・小学校に向けて何か取り組まれているか？(文字を教えるなど聞くが…) ➡ 敢えて教えるのではなく、遊びの過程で、自ら文字や数字に興味をもった際に活動に取り入れ「やってみよう！」「知りたい」という意欲を大切にしている。 ※子どもたちの意欲を引き出す先生方の言葉掛けが素晴らしい。 ・未就園児が地域にいない現状にはあるが、家庭教育講座に保護者だけではなく「かもっこくらぶ」の方の参加も呼びかけてはどうか？ ・保護者に「具体的な言葉で褒めてあげてください」と伝えられていたが、それが子どもにとって、しっかりと見てもらえているという安心感に繋がっていると思う。 ・乳児クラスの照明の暗さについて、園評価アンケートで保護者から、改善の要望があったようだが、学校などでは明るさを測定(窓際や廊下なども)している。園も測定してみてもどうか？ ➡未来課と相談の上、業者と検討し、3月末に、乳児室の照明を交換した。 ・道徳・人権教育は、異年齢の遊びを通して、年下の子どもたちを思いやる姿(年下の子どもに合わせたルールを考える・分かりやすく説明する・目線を合わせ優しく声を掛けるなど)が自然と育っている。小学校での様子を見ていても、年下の学年に対して同ような姿が見られる。それは園で培ってきたものが引き継がれているからではないか？もっと自信をもって、評価は「B」ではなく「A」でも良いのでは？ ・園でこれだけしっかりと支援されている丁寧な手立てを小学校でも引き継いでいただきたい。 園からしっかりと繋いでほしい。 【園からの反省点】 ・クラスだよりについて、職員の負担軽減について提案をいただいていたが、職員の思いから改善に至らなかった。 ⇒(評議員様)これからも先生方の負担にならないようにと思う。 ・園だよりのねらいをクラスだよりに反映できるようにとの助言を職員とは共通理解をしたが、現実には難しかった。 ⇒クラスだよりの中で「育ち」や「意図」が書かれているのが分かったので、それで良いのではないかと。